―未知の時代を生きるために―

西日本を襲った豪雨は、死者・行方不明者200名を超える大災害になってしまいました。死者の７割が高齢者だったことを含め、被害が拡大した一因に地域社会の超高齢化があるといいます。被災地に高齢者が多い上に若い世代が少なく避難時に支え手がない、ため池の決壊もかつてのように地域力でのメンテナンスされていないことが原因、等々。将来的には高齢化率４割になる上に、大地震もいつどこでおきるか知れぬ日本で、いったいどのような手立てが有効なのでしょうか。待ったなしの課題ですが、抜本的な対策を講じる目立った動きが見られないのがもどかしい。この豪雨の直後から続いた「災害」認定された４０℃を超えた酷暑も含め、未知の時代に入ったことを強く感じました。

酷暑の夏、とにもかくにも、皆さま万全を期して乗り切られますように。

さて、第16回定例総会が６月17日に無事終了しました。

おかげさまで、大きな事故なく過ぎた１年を報告することができました。介護事業所の不調が伝えられる中、暮らしネット・えんは利用希望者が増え収入も上がった事業が多く、その結果良好な収支状況となりました。職員状況は充分とは言えないまでも、離職者は少なく勤続10年を超える職員が増えています。また、『だれでも食堂にいざ』や『認知症カフェ・えんの森』などで、地域の多様な人々が集まる機会が増えました。一方、本格的に始まった要支援対象の訪問サービスは担い手不足で新規の希望を受けられないことも起きており、この対策は次の課題として持ち越されています。全体として、地域とのかかわりが深まったことで、全体が底上げされている実感が強い年度となりました。

そして、本年度の計画は盛りだくさんです。もっとも大きな課題は、利用者が増えて手狭になった多機能ホームの増改築です。稼働中の事業所ですから、そうそう簡単に改築もできず、知恵を絞らねばなりません。

また、ひとつ新たな取組みを掲げました。必ずやってくる大災害に備えて「福祉的一時避難所」になることを想定して、準備を始めるというものです。この計画は、実際に東日本大震災で実際に被災した若い職員の提案によるものです。この計画こそ地域の皆さんとしっかり連携しなければ達成できません。骨子ができましたら、ご報告して協力をお願いすることになります。

ＮＰＯ設立15年の節目の年、少子超高齢の地域の中で、これからもできることを積み重ねてまいります。どうぞ力を貸してください。

（代表理事／小島美里）